【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】（中学校用）

都道府県名	北　海　道

Ⅰ学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	岩見沢市立明成中学校					
学　年	１ 年	２ 年	３ 年	特殊学級	計	教 員 数
学級数	３	３	３	０	９	２１
生徒数	９９	１１６	１１８	０	３３３	

Ⅱ研究の概要校

1．研究主題

自ら学ぶ意欲をもつ生徒の育成

（１） わかる授業づくり
・新しい評価観に基づく授業づくりを通して、一人一人の学びをつくりあげる。

（２） 自分の伸びが実感できる授業づくり
・生徒が自分の力を正しく認識し、学習の成果に気付くことで自分の成長を実感できる。

2．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

（１）英語（全学年）
・中学１年生で初めて学習する教科であるため、最初の学習段階からきめ細かな指導をすることで、基礎・基本の定着を図る。２，３年生でも継続して指導する。

（２）数学（１・２年）
・学力差が出やすい教科であるので、個に応じた指導の徹底を図り、基礎・基本の定着を図る。

(2) 年次計画

平成15年度	１．本年度の研究テーマ （１） 個に応じた指導のための効果的な指導方法、教材・教具の研究を図る。 ・生徒一人一人が「わかる授業」の研究 ・基礎・基本の定着を図る研究 （２） 個に応じた指導のための効果的な指導体制の工夫を図る。 ・少人数授業、T・T、コース別学習等の研究 ２．研究の見通し 生徒の学力や特性を把握し、個に応じた指導の充実を目指す指導方法、指導体制の工夫を図ることで、１時間の授業で生徒一人一人がわかる楽しみや喜びを実感し、学習意欲が向上し、基礎・基本の定着に結び付くだろう。

	３．研究の内容・方法 ①個に応じた指導体制の工夫改善 ・単元や場面に応じた効果的な学習集団の工夫改善を図る。 (全学年の英語で少人数、T・T 指導 /1、２年数学で少人数、T・T 指導を実施) ②ブロック研修を行い、個に応じた指導方法、教材・教具の開発に向けて、各教科での共通理解、連携を深め、わかる授業への取り組みを図る。 ・中ブロック　２ブロック編成（５教科 / 芸体教科） ・小ブロック　８ブロック編成（国語・社会・数学・理科・音美・技家・保体・英語） ③研究授業を行い、成果と課題を検証する 第１回　　９月　５日　数学科（少人数授業　２年生） 第２回　１０月１５日　英語科（少人数授業　１年生） 第３回　１１月１４日　英語科（T・T 授業　　３年生） 第４回　　２月１９日　英語科 予定

平成16年度	１．本年度の研究テーマ （１）個に応じた指導のための効果的な指導方法、教材・教具の工夫開発を図る。 ・生徒一人一人が「わかる授業」の研究 ・基礎・基本の定着を図る研究 （２）１時間の授業の中で、さらに効果的な指導体制の工夫を図る。 ・少人数授業、T・T、コース別学習の実践 ・１時間における指導体制の組み合わせの研究（少人数授業、T・T 指導の組み合わせ等） ・コース別、選択学習の研究 ２．研究の見通し １時間の授業で個に応じた指導の充実を図り、効果的な学習集団をつくることによって、生徒一人一人がより活発に主体的に活動し、自分の伸びが実感でき、基礎・基本の定着が図られるだろう。 ３．研究の内容・方法 ①ブロック研修を行い、各教科での共通理解を図るとともに、連携を深める。 ②研究授業を行い、成果と課題を検証する。 ③単元や場面に応じた学習集団の工夫を行い、より効果的な学習集団の工夫を図る。

(3)研究推進体制

学校教育目標

・知性を磨き、真理を探究する生徒（聡明）
・豊かな心情をもち、自他を尊重する生徒（敬愛）
・心身ともにたくましく、粘り強く実行する生徒（躍動）

↓

研究主題

自ら学ぶ意欲をもつ生徒の育成

（1）「わかる授業」づくり
（2）「自分の伸びが実感できる授業」づくり

ブロック研修

中ブロック
・２ブロック編成：５教科 / 芸体教科
小ブロック
・８ブロック編成：国語・社会・数学
理科・音美・技家
保体・英語

↓

研修部

研修１	・校内研修の計画と推進 ・研究、研修全般の資料収集 ・研究紀要の作成・研究会案内
研修２	・評価計画 ・評価計画表、規準表、基準表の作成と実践検証
研修３ （フロンティア）	・個に応じた指導方法、教材・教具の開発 ・効果的な指導体制の工夫・改善

↓

指導と評価が一体化した授業

①授業内容の系統化とポイントを焦点化する
・１単位時間ごとの教材研究を深め、どの部分を工夫し、わかりやすさを求めたかを明確にする。
②伝えたい事柄を簡潔にまとめる
・生徒自身が解決方法を予測でき糸口を見い出せる授業を構築する。
③授業終了後に、何を学んだのかを振り返ることができるようにする。
・生徒自ら進歩の状況を振り返えられるような授業展開にする。

①個に応じた指導方法の開発研究
・基礎・基本の定着を図る研究
②個に応じた指導のための効果的な指導体制の工夫
・学級全体、少人数授業、T・T、コース別学習等の研究

①一人一人の到達目標の明確化
・評価計画の作成、実践検証
②評価方法、手順に関する共通理解
・各教科の特性に応じた評価のあり方

↓

わかる授業

‖

自分の伸びを実感できる授業

↓

自ら学ぶ意欲をもつ生徒の育成

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

（１）個に応じた指導のための効果的な指導方法、教材・教具の開発を図る。

① ブロック研修会を開催し、各教科（英語科・数学科）にて、個に応じた指導方法、教材・教具の開発に向けた話し合いを深めるとともに、研究授業を行い、日常の授業改善を図ることに努めた。

《校内研究授業》（英語科・数学科のみ）

９月　５日	数学科（少人数授業	２年生）
１０月１５日	英語科（少人数授業	１年生）
１１月１４日	英語科（T・T 授業	３年生）

② コミュニケーション活動、ペアワーク等、実践的な活動を多く取り入れ、生徒の意欲を高めるとともに、基礎・基本の定着に向けて、単元に応じたワークシートの作成、ワークブックを活用し、一人一人の進歩の状況に応じた指導に努めた。

（２）個に応じた指導のための効果的な指導体制の工夫を図る。

少人数授業、T・T、コース別学習の取組

指導体制は生徒の実態や教科の特性に応じて、その場面に最も適する学習集団を工夫し、実施することが求められる。本校においては、２年間少人数授業を実施し、その成果と課題が明確になってきている。そこで、今年度は、より効果的な授業を目指すためにも、少人数授業の継続とともにT・T 授業を導入している。

【少人数授業における成果】
- 一人一人に対してきめ細かな指導ができる。
- １時間の授業において、一人一人が発表する時間が保障できる。
- 言語を学ぶ教科においては、コミュニケーション活動（ペアワーク等）の充実を図ることができる。

【少人数授業における課題や問題点】
- 綿密な打ち合わせを行い、指導方法や評価方法の統一を図る。
- 学級全体の様子が見えない。
- 免許外担当教師の負担が大きい。

少人数授業における最大の課題は、クラスを半分に分けて授業を行う際に起こる諸問題である。この問題を解決する一つの方法として、T・T 授業を導入している。

【今年度の実施形態】

学年	教科	実施形態		
		１学期	２学期	３学期（予定）
１年	英語	T・T	T・T/少人数	T・T/少人数
２年		少人数	少人数	T・T/少人数
３年		T・T	T・T/少人数	コース別学習
１年	数学	T・T	T・T/少人数	T・T/少人数
２年		少人数	T・T/少人数	T・T/少人数

３学期は、３年生英語科においてコース別学習を導入し、個に応じた選択学習を実施する予定である。

各学年での実施形態について　《英語科》

【１年生】

１年生は、初めて英語を学習することから、学級の仲間づくりや学級全体で学習をするという意識を高めるため、１学期中は、Ｔ・Ｔを実施した。２名の指導者が主、副の役割分担を交互に入れ替えながら、１時間の授業の流れを全体で確認し、友だちと協力して行うペアワークなどを取り入れたことは、効果的であった。

２、３学期は、１学期に身に付けた１時間の学習の流れをもとに、一人一人に発表する時間やコミュニケーション活動の充実を図るために、少人数授業を中心に実施した。

指導者側の留意点として、学級が２つに分かれたので、指導方法、教具は統一して実施すること、評価方法の綿密な打ち合わせ（特にコミュニケーション時の観察評価）が必要であった。

また、場面に応じてＴ・Ｔによる指導を組み入れていた。
（音読テスト、単語テスト等の評価に関わる各テスト等）

【２年生】

昨年度から少人数授業を実施しており、指導者が子ども達の実態（英語が好きな子、苦手な子など）を事前に把握しているため、また４月から少人数授業を実施し、できるだけ下位の子ども達の学力の向上に取り組んだ。課題に応じてＴ・Ｔの指導を行った。２年生の指導に当たっては、３人の英語教師（所属学年が３人とも異なる）による少人数授業を実施しており、指導法、教材、評価等の統一を事前に行っている。

【３年生】

３年生は、１年生の頃から少人数授業を実施してきた。少人数授業の効果（一人一人にきめ細かな指導ができる、発表時間がある等）は明らかであるものの、同じ学級の友だちの様子が見えないことは、指導者同様、子ども達にとっても大きな問題点であった。また、３年目の英語学習に求められることは、個別指導ではなく、学級全体で復習に重点を置いた指導であると考えられたため１学期中はＴ・Ｔによる指導を中心に実施してきた。

２学期は、場面に応じて少人数授業を取り入れ、３学期にはコース別学習の実施も予定している。（文法コース・長文読解コース等）

各学年での実施形態について　《数学科》

【１年生】

１年生は、英語同様に学級の仲間づくりや学級全体で学習する意識付けも含め、１学期からＴ・Ｔによる指導を実施した。最初の段階では、基本的な計算問題が多いことから、個に応じた指導を行い、２名の教師によるきめ細かな個人指導を徹底した。

２学期には、生徒の学習状況に対応したコース別学習も数回実施し、大単元が終了するごとに生徒の学習状況に応じた指導を取り入れた。

【２年生】

計算領域が中心の期間で少人数授業を実施した。その理由としては、きめ細かな指導ができることがあげられる。２０人程度の人数である場合、目が届きやすく支援もしやすい。

また、一人一人が発表する場面もつくりやすく、生徒全員が授業に参加している意識をもつことができる。

また、２学期の後半から始まった図形領域では、Ｔ・Ｔによる授業を実施した。理由としては、Ｔ１が全体指導、Ｔ２が生徒への支援と分担することが効果的であると判断したためであり、図形領域では、証明が多く扱われ、文章を読み、解くことは難解であることが多いからである。

そのため、全体指導やヒントを出したりすることを一人の教師が受け持ち、もう一人がその間、悩んでいる生徒への支援に徹することで、効果的な指導をすることができた。今後も課題に応じた授業形態の工夫に力を入れたい。

2. 今後の課題

（１） 個に応じた指導のための効果的な指導方法、教材・教具の開発に向けて

今年度の取組を通して、効果的であった指導法、教材・教具についてブロックで話し合い、次年度に継続、再度検討すべき点をまとめる。また、次の学年への引き継ぎを綿密に行う。

（２） 個に応じた指導のための効果的な指導体制の創意工夫に向けて

今年度実施した、少人数授業、T・T、コース別学習の成果と課題を検討し、さらに効果的な学習集団の工夫改善を図る。

・１単位時間の授業の中で、少人数・T・T による授業を組み合わせて実施する。
・単元や場面、生徒の学習状況に応じた、コース別学習を充実する。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

（１）各単元終了後に、小テスト、まとめプリント等を実施
（２）教研式標準学力テストの実施　１．２年生５教科　１１月実施
　　２月予定
（３）年度末にアンケート調査を実施（英語科・数学科）

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校内研究授業

第１回	９月　５日	数学科	（少人数授業　２年生）
第２回	１０月１５日	英語科	（少人数授業　１年生）
第３回	１１月　５日	英語科	（T・T による授業　３年生）
第４回	２月１９日	英語科	（少人数授業　１年生）予定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所にチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　［〇］15 年度からの新規校　［　］14 年度からの継続校
【学校規模】　［　］３学級以下　［　］４ ～ ６学級
［〇］７ ～ ９学級　［　］10 ～12 学級
［　］13 ～15 学級　［　］16 学級以上

【指導体制】　［〇］少人数指導　［〇］T.T による指導
［〇］その他

【研究教科】　［　］国語　［　］社会　［〇］数学　［　］理科
［〇］外国語　［　］音楽　［　］美術　［　］技術・家庭
［　］保健体育　［　］その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　［〇］有　［　］無